

保育と子どもを取りまく状況

平成26年4月 理事長・園長 片山喜章

みなさんをご存知でしょうか。来年4月、保育制度が64年ぶりに大きく変わります。

昨年から、作業はすすめられ、各市町村で関係者を交えた子育て会議が開催されており、現在、佳境に入っています。しかし、だれも制度改定後の状態については、予測が立たず、あちこちで憶測が飛び交って、各地で情報交換会や勉強会が行なわれています。

現在の幼稚園、保育園という枠組みを外して、1つの制度1つの所轄官庁で、就学前教育や保育を担おうとする歴史的な改革ですが、現状では、かなり大きな混乱が予想されます。

一方で『日本のスタンダードな就学前教育・保育』について、国として、何をどのように取り組んでよいのか、実際、よくわかっていないというのが私見です。今回の制度改革においても、とりあえず、「幼稚園教育要領」と「保育所保育指針」を継ぎ合わせた「保育要領」を作るにとどまりました。私が、いつも不満に思うのは、「保育要録」の作成にかかわる日本のイチ流の学者や有識者は、大綱化（ざっくりとした方向）された文言づくりに躍起になっていることです。現場には、多種多様な困難や課題があり、保育指針に書かれてある文言は、個々の保育者にとっては、実質、役立たずで、具体的な保育の形はイメージできないのです。

大切なことは、園内において、自分たちの課題や問題を見つけ出して、改善するチカラを保育者集団として発揮すること、そして、保育について、子どもについて語り合う、その“語り合いの質”を高めていくこと、それでは、より良い成果が現れないのが実情です。

そんな実情を背景に、もう一方で、全国私立保育園連盟の研究機構（副委員長に従事）においては、『保育のグランドデザイン』の構築をめざしています。ずいぶん以前から、子どもの育ちが様々な形で歪んでいる実態や世界の保育事情、最新科学の知見を取り込んで研究企画してきました。しかし、昨今、「おかしな時代の到来」について憂慮し、考察しています。

「国連が機能しないようになってきた混迷する世界情勢」「ビジョンが持ちづらい時代とそこで生きる若者たち」「有史以来、人類が経験したことのない激変した社会状況」、何か大事なものが壊れ、新たな何かが生まれようとしている、そんな時代の到来に呼応した「保育の内容」や「園生活」の姿を描きだす取り組みをすすめています。

私個人は、園運営において、日本の古き良き伝統と文化（若いときは嫌いでした）の柱を大切にしながら大改修するイメージを抱いています。その柱とは“気遣い”“心遣い”を含んだ日本的な感性です。それが個々のスタッフの心の中にしっかり立っていれば、自ずと創意工夫されたやわらかな園風土が醸成される、そう思い描き、実践していきたいと思えます。